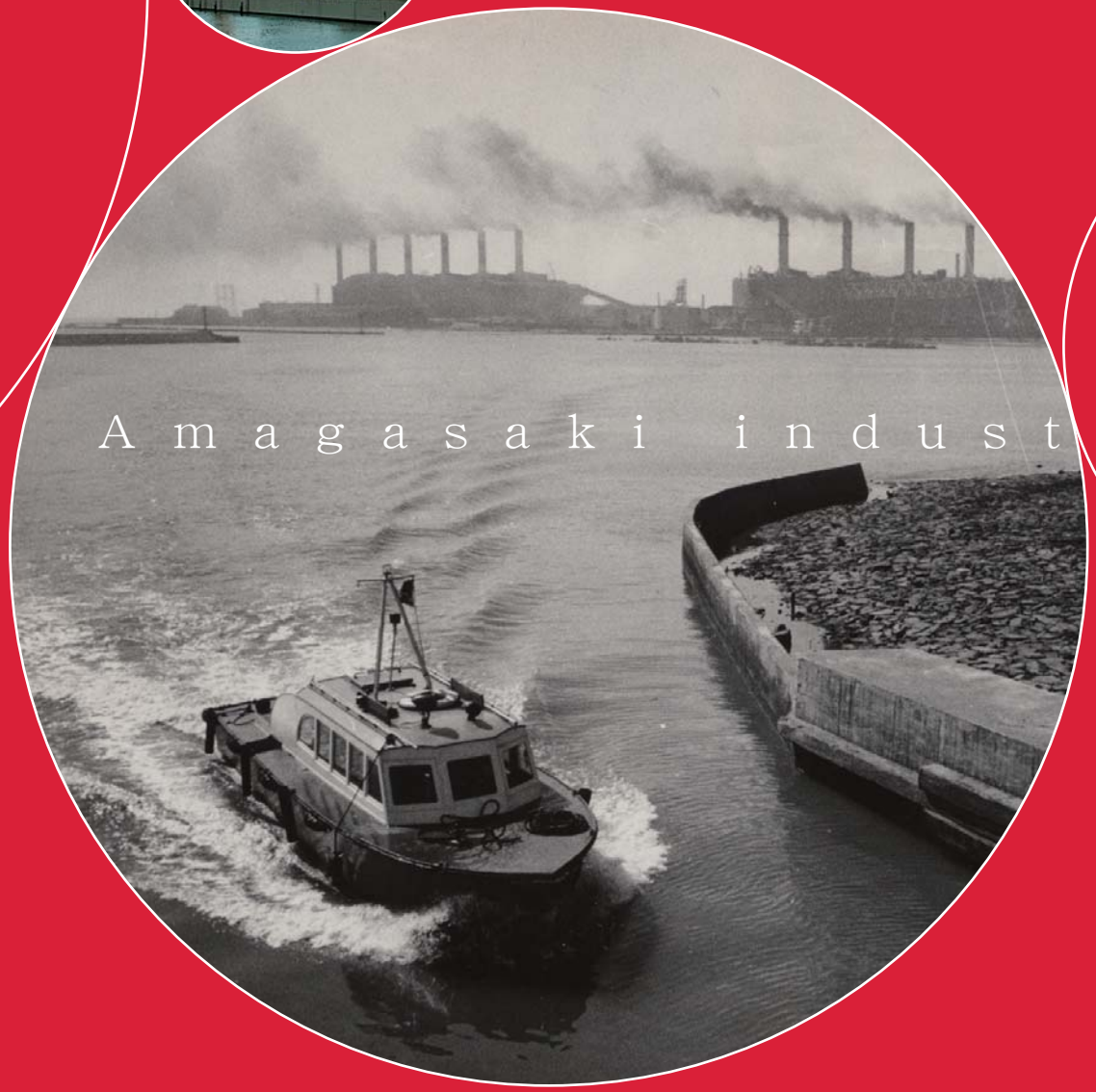
工都尼崎の情景

平成 16 年–20 年

Amagasaki industrial inheritance



工都尼崎の情景 平成十六年—二十年

財団法人 尼崎地域・産業活性化機構

「工都尼崎の情景」の記録

工業都市として発展してきた尼崎。
わが国の経済発展に大きく貢献しています。
尼崎の工業地帯には、大きく分けて南部臨海工業地帯と内陸部工業地帯の二大工業集積地があり、工場や産業に関連する諸施設がもたらす独特の景観を醸し出しています。
そうした景観について、工場景観を貴重な地域資源として見つめなおし、皆さんに知っていただくための記録集です。
写真は昭和三十年代の尼崎の工場風景写真（尼崎市立地域研究史料館提供）や尼崎の産業空間を構成する各種造形物の写真、そして、財団法人尼崎地域・産業活性化機構と財団法人尼信地域振興財団が平成十六年度から二十年度に実施した尼崎の工業地帯の風景や産業空間と人とのかかわりを対象に募集した「工都尼崎の情景」写真コンテストでの入賞・入選作品の写真です。

も・く・じ

「工都尼崎の不易と流行」 1
◆関西学院大学総合政策学部 教授　角野 幸博

「工都尼崎の情景」写真コンテスト
- 平成16度受賞 3
- 平成17度受賞 11
- 平成18度受賞 19
- 平成19度受賞 27
- 平成20度受賞 35

◆大阪芸術大学写真学科 教授　有野 永霧

尼崎が工都といわれるようになったのはいつの頃だろうか。

明治２２年、尼崎紡績誕生の頃から、町に工場が集中し始めた。以来、工業は尼崎のイメージと経済をずっと牽引してきた。この町には近世城下町としての長い歴史もあるし、近代以降も農業と漁業は営々と営まれ、魚肉のテンプラや尼イモなどの特産品も生まれた。そうした歴史が紡いできた記憶は、今も断片的に残ってはいるのだが、今の尼崎のイメージが工業に引っ張られてきたのはまちがいない。そしてそのプロセスは、日本の近代化と高度経済成長の歩みとぴったり重なる。

ところで、ある町のイメージを思い浮かべる場合、景観が与える影響ははかりしれない。景観とは単なる見かけの町の姿ではない。それは、市民や企業、行政の日ごろの営みがからみあい、目に見える形になって像をむすんだものである。だから工都の景観は、工場建築だけでつくられるのではない。働く人々の通勤風景、その人たちのくらしを支える市場や食堂の風景、原料や製品を満載して行き交う大型トラック、そして海と運河と夕陽と高速道路。こうした人々の生き様と季節の移ろいとが相俟って、尼崎ならではの情景を描いてきた。

もちろん、工都の情景は不変のものではない。産業構造の変化とともに、まちなみも生活も変わっていく。たくさんの煙突から昇る黒い煙も地盤沈下にあえぐ姿も、今はもうない。工場の製造過程や製品が変化していくなかで、目に見える姿も変わってきた。たとえば最近湾岸部につくられた、そして今も増設中の大型プラズマディスプレイ工場の巨大な白っぽい箱は、工都のイメージを一変させるかもしれない。内陸部の工場跡地には、たくさんのマンションが建

工都尼崎の不易と流行

記録された写真は、一時期を切り取ったものにすぎないが、その一瞬のシーンから歴史を確認できると同時に未来の予兆を見つけることが出来る。

設された。産業構造の変化は、工場と市民のくらしとの関係も変えてしまう。製造業の変化が、尼崎の情景を変えつつある。

それでもやはり、尼崎は工都なのである。

工都の様々な情景を、市民の目で記録すること。それは尼崎が尼崎であることを確認し、記憶にとどめる作業に他ならない。市民それぞれの尼崎を写すためには、たんねんに町を歩き回らなければならない。写すことは尼崎のアイデンティティを確認すること、未来の姿を予測することにつながる。

私たちはここに集められた写真から多くのことを学ぶ。5年間に写真に収められた風景は、撮影者の美意識というフィルターを通して、尼崎のほんの一時期の断面を切り取ったものにすぎないが、その一瞬のシーンからは、近代尼崎の歴史を確認できると同時に、未来の予兆を見つけることもできる。また尼崎の写真とはいうものの、これらは一都市の姿にとどまらず、近代から現代にかけて日本の都市がたどった変化の記録でもある。

撮影者の目と感性は、工場建築や設備には思いがけない造形美があることを示してくれた。工都の景観に垣間見える市民生活の痕跡からは、ものづくりと人とのやさしい関係を見つけることができる。さらに、ほんのわずかな空き地で育つ花や緑と、季節ごとに変わる光と水の輝きからは、たくましくてしたたかな自然の営みを感じ取ることができる。

ここに集められた写真は、不特定多数の観光客を呼び込むための、とおりいっぺんの観光写真ではない。だが、観光の質が多様化し変化していくなかで、都市型観光のひとつの可能性を暗示してもくれている。だからといってどこかの町の産業観光のように、衰退してしまった産業の遺産的価値だけにすがるのでもない。まさに歴史をふまえたうえでさらに変化、発展しつつある現在進行形の工業と、その環境の魅力を新しい観光資源に育てる試みなのだと思う。

つまり工都の情景を記録することは、それだけに留まるものではないということだ。それは市民が町を発見し、これからのまちづくりを考えるためのひとつの試みである。もちろん市民が発見した魅力が観光資源となり、ものづくりに従事する人々の誇りと支えになればなお嬉しい。この5年間に記録された写真には、そのヒントが満載されている。そして10年、20年後に同じ試みがなされて、工都の情景の不易と流行とを再確認できればと願う。

関西学院大学総合政策学部 教授
角野　幸博

最優秀賞 ●「尼崎シンフォニー」

photographer　山田 慶信

工都尼崎の情景【第1回】

■尼崎は阪神工業地帯の中核を担った歴史があり、工業や産業に関連する諸施設が独特の景観を作り上げています。

このコンテストは、その景観を貴重な地域資源として見直そうとする試みです。初年度は、国道四三号線以南の工業地帯の風景や産業空間と人とのかかわりをテーマにしました。

工都は無機物が多く写真に味付けができる有機物がすくないので、当初よい作品が集まるか不安でしたが、魅力的な力作が期待した以上に集まってきました。皆さんの理解と情熱の高さ・深さに感動しました。

初年度の最優秀賞に工都の象徴的な作品を選ぶことができ、以後レベルの高い審査を展開することができました。

優秀賞 ●「海岸線」

photographer　森田 喜久雄

おつかれさまー！

尼崎市長賞 ●「今日も一日お疲れさま」

photographer　荘司 靖久

尼崎市議会議長賞 ●「明日への残照」

photographer　谷田 巳樹男

兵庫県阪神南県民局長賞 ●「タンクの見える公園」

photographer　恒本 正人

まてまてー!

(財)尼崎地域・産業活性化機構理事長賞

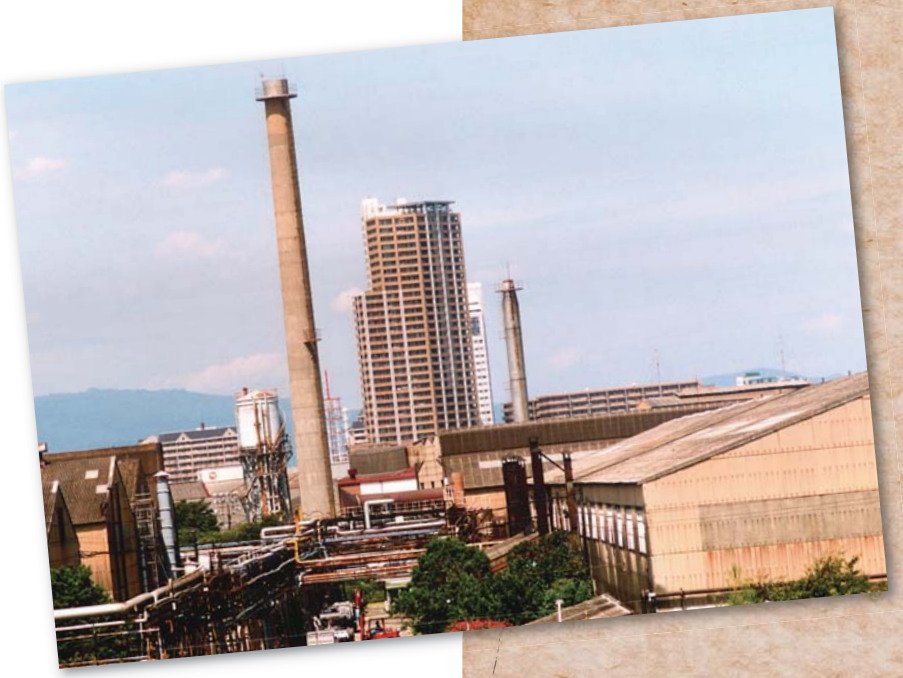
●「工都を見守る」

photographer　鳴瀬 博美

(財)尼信地域振興財団理事長賞

●「甦かえる碧天 パート２」

photographer　板井 隆彦



尼崎商工会議所会頭賞　●「未来に向かって」

photographer　岡本 秀昭

尼崎経営者協会会長賞 ●「夕 景」

photographer　稲本 恵俊

(協)尼崎工業会理事長賞 ●「進入禁止」

photographer　竹下 繁

尼崎信用金庫理事長賞 ●「空と調和」

photographer　島野 宏

尼崎産業フェア実行委員会委員長賞 ●「帰り道」

photographer　藤原 隆彦

兵庫県写真材料商(協)理事長賞 ●「好 天」

photographer　児玉 洋之

「工都の風」

photographer　畝村 信子

「快晴の左門殿川」

photographer　鳴瀬 博美

「跳ね橋」

photographer　岡本 秀昭

「砕かれた想い」

photographer　稲本 恵俊

「搬送待機」

photographer　川端 一三

「砂 山」

photographer　森田 喜久雄

「美しい運河と工場群」

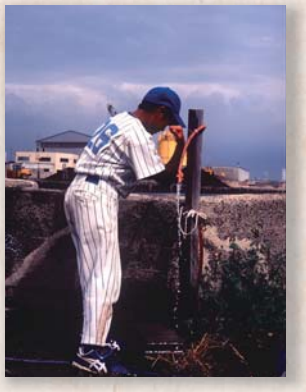
photographer　山田 慶信

「管もよう」

photographer　尾藤 洋一

「レッカー群」

photographer　児玉 洋之



「暑い日」

photographer　森本 和郎

「躍 動」

photographer　荘司 靖久

入選作品
（順不同）

最優秀賞 ●「休 憩」

photographer　鹿島 清秀

工都尼崎の情景【第2回】

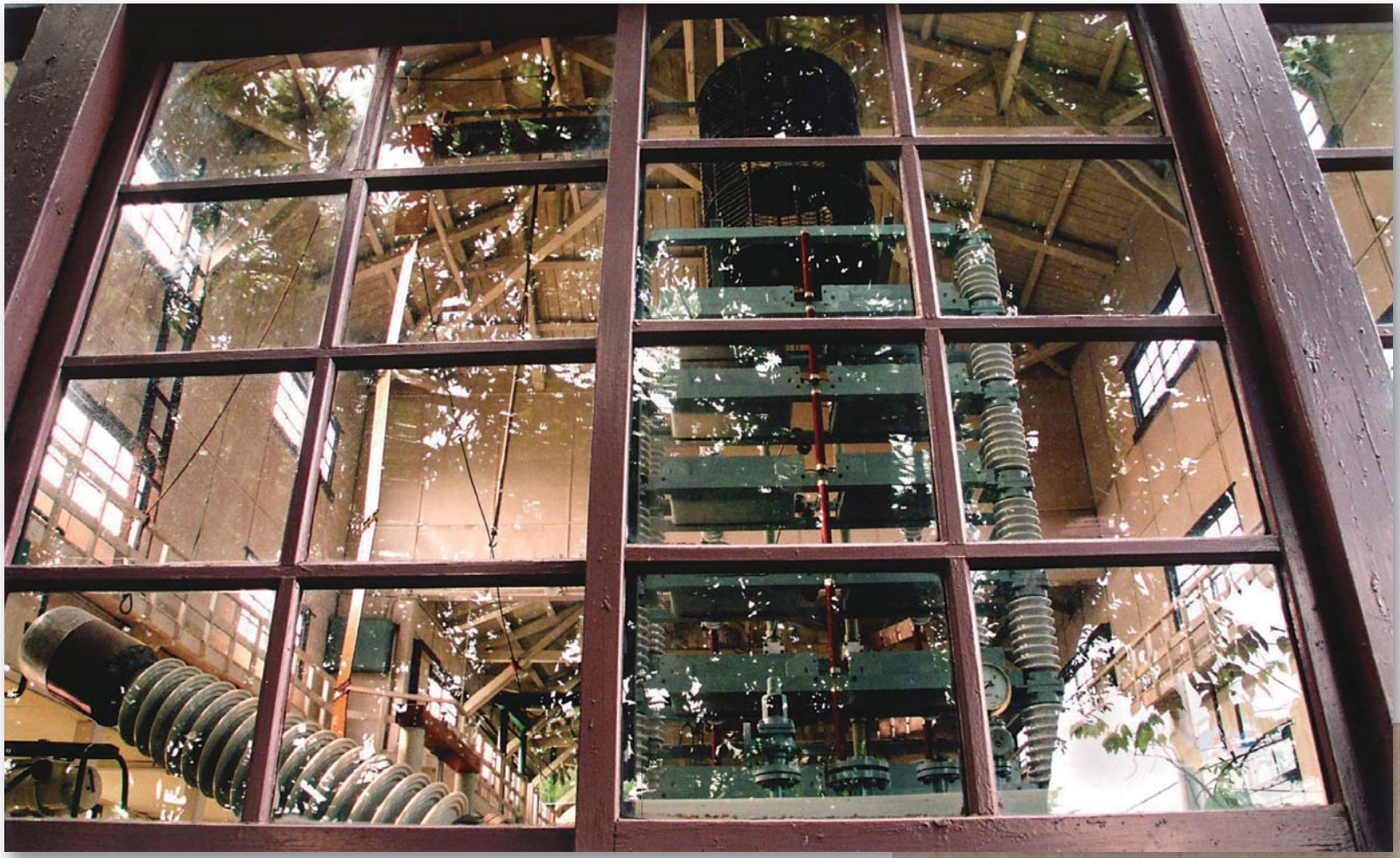
■十七年度は、国道四三号線以北の工業地帯の風景や産業空間と人のかかわりを対象とした作品を応募しました。

工都も人間が織り成す空間です。国道四三号線以北となるとやはり中小企業や町工場が多くなり、人々の温かい交流のなかで営まれている家族的な人間味あふれる産業の姿が写し出されてきました。

特に最優秀賞の作品によって、尼崎には工都としての景観風景だけでなく、心の通い合いをとおして生産に従事している産業があることを示すことができました。『人間による人間のための工都尼崎』という幅のある審査ができました。

優秀賞 ●「現役健在なり」

photographer　荘司 靖久



尼崎市長賞 ●「陽 光」

photographer　森田 喜久雄

尼崎市議会議長賞 ●「心のかけ橋」

photographer　植田 善弘

兵庫県阪神南県民局長賞 ●「三色塔」

photographer　手塚 勇

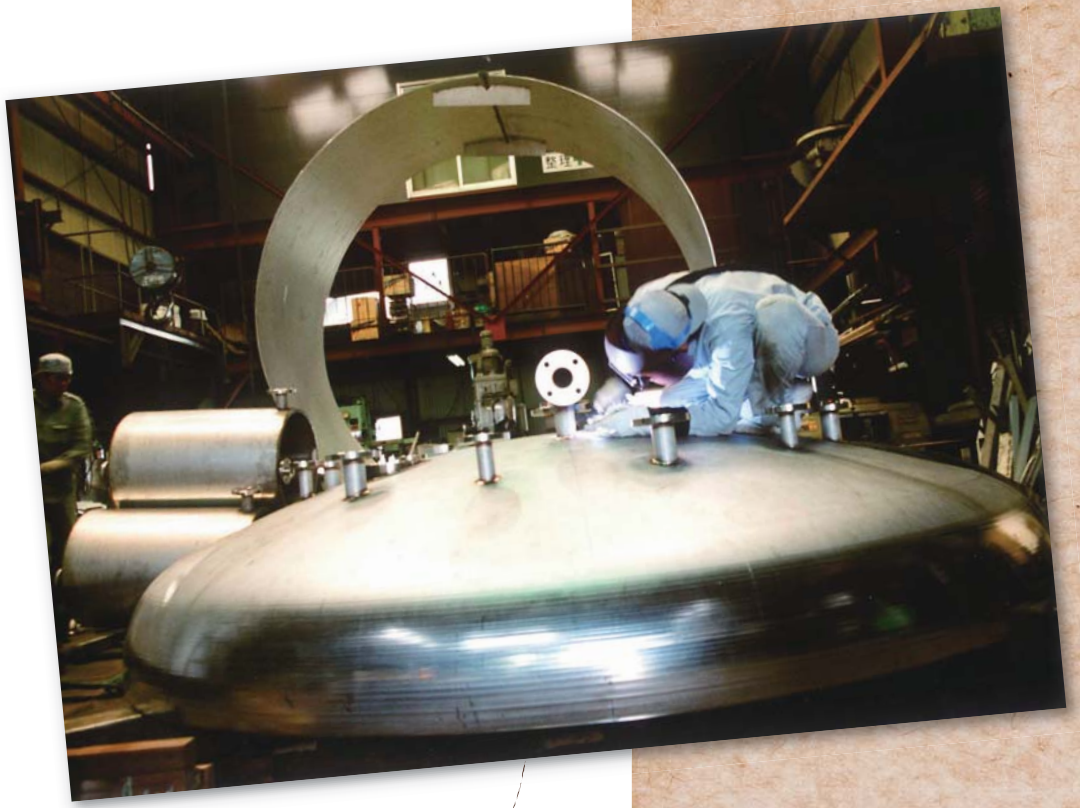
(財)尼崎地域・産業活性化機構理事長賞

●「わかれ道」

photographer　鳴瀬 博美

(財)尼信地域振興財団理事長賞 ●「弧」

photographer　徳本 善則

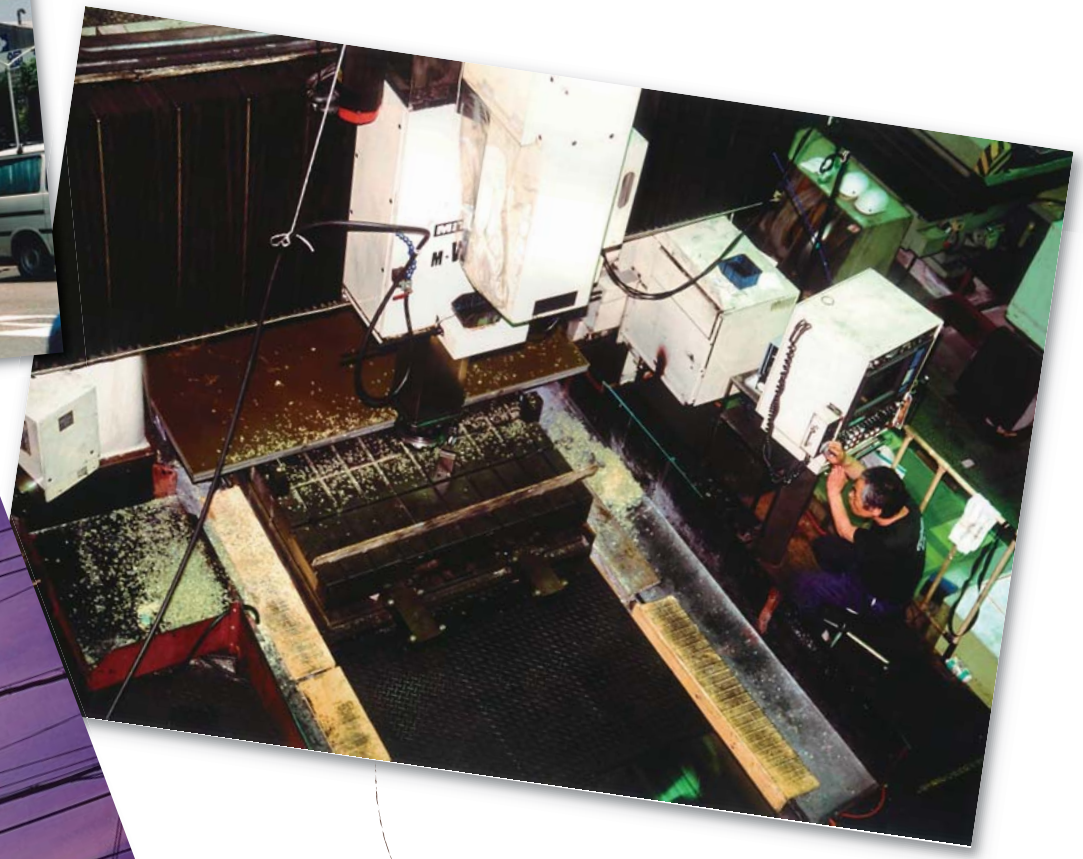


尼崎商工会議所会頭賞 ●「光る技術」

photographer　竹下 繁

尼崎経営者協会会長賞 ●「産業の活路」

photographer　板井 隆彦



(協)尼崎工業会理事長賞 ●「ミクロへの挑戦」

photographer　饗場 紀元

尼崎信用金庫理事長賞 ●「煙突のある風景」

photographer　山田 慶信

ボクも
手伝えるかな・・・

尼崎産業フェア実行委員会委員長賞 ●「協 働」

photographer　岡本 秀昭

兵庫県写真材料商(協)理事長賞

●「モガワのかっぱ」

photographer　藤川 佳栄子

「クレーンも空へ」

photographer　鳴瀬 博美

「語り合い」

photographer　藤原 隆彦

「青いタンクのコンポジション」

photographer　前田 善朗

「安全な産業道路」

photographer　恒本 正人

「溶 接」

photographer　鹿島 清秀

「仕事への責任」

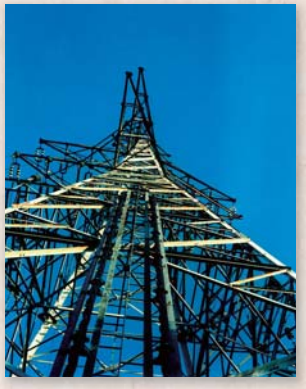
photographer　岡本 秀昭

「煉瓦の小径」

photographer　髙見 善巳

「ふり向けば街工場」

photographer　藤井 克祐



「鉄 塔」

photographer　奥田 隆一

「電波塔」

photographer　今井 信義

「場内巡視中」

photographer　荘司 靖久

入選作品
（順不同）

最優秀賞 ●「検 査」

photographer　岡本 秀昭

工都尼崎の情景【第3回】

■撮影の対象範囲を尼崎市域全域に広げました。範囲が広がったため、市内全域にわたって撮影を敢行していただかなければなりませんでしたが、応募の皆さんの作品を見ると距離の苦痛を省みず、熱心に取り組んでいただけたのがよくわかりました。頭の下がる思いです。結果は、より多様な工都の様相を集めることができました。

昨年度にも感心したことですが、工場外部から捉える作品が多いなか、内部にまで入り込んで撮影された意欲と情熱に感服しました。撮影するため撮影意図を説明したりしながら許可を得られた努力は、尼崎の工都に対する愛情の証しでしょう。

優秀賞 ●「ヨットと工場」

photographer　吉田 明

尼崎市長賞 ●「ホッと一息」

photographer　荘司 靖久

尼崎市議会議長賞 ●「ランチタイム」

photographer　鳴瀬 博美

兵庫県阪神南県民局長賞 ●「入 港」

photographer　竹下 繁

(財)尼崎地域・産業活性化機構理事長賞 ●「花と煙突」

photographer　山田 慶信

(財)尼信地域振興財団理事長賞

●「光 明」

photographer　青山 武司

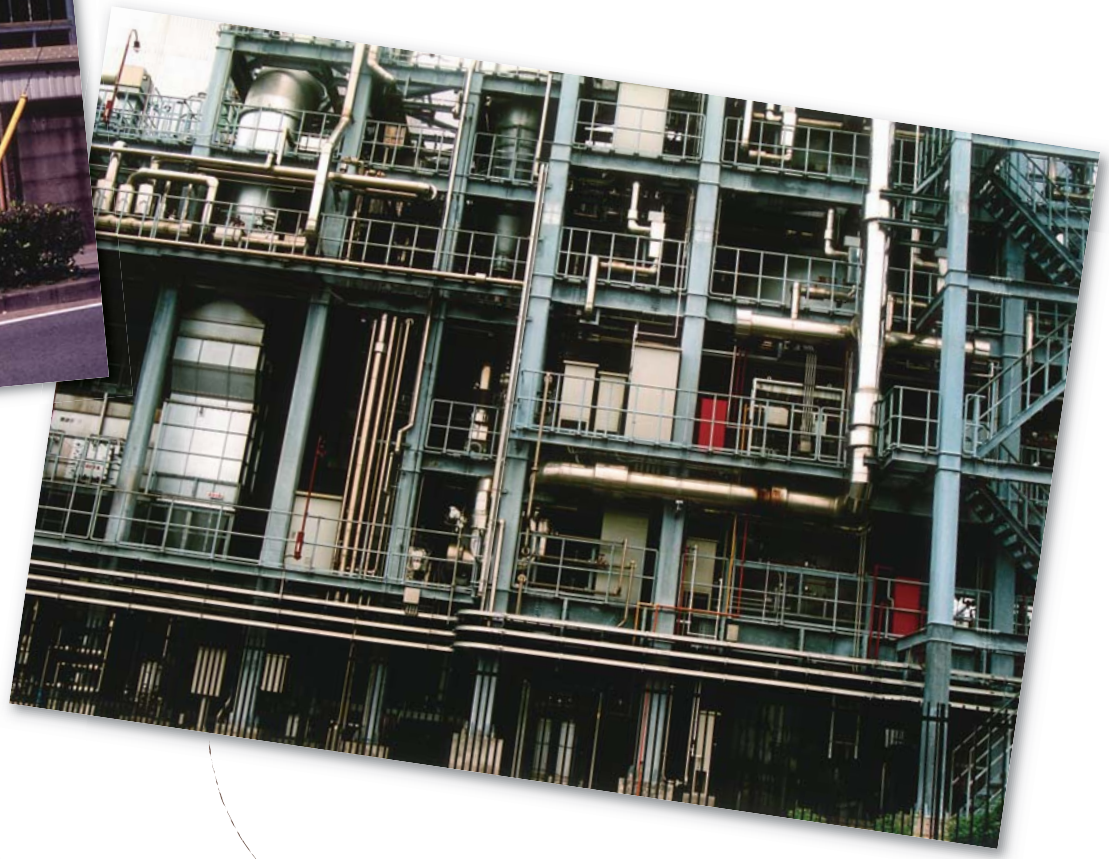
のじぎく兵庫国体尼崎市実行委員会会長賞

●「ミラー」

photographer　今井 信義

尼崎商工会議所会頭賞 ●「花のある工場」

photographer　森田 喜久雄



尼崎経営者協会会長賞 ●「幾何学模様」

photographer　徳本 善則

(協)尼崎工業会理事長賞 ●「縁上の力持ち」

photographer　鹿島 清秀

尼崎信用金庫理事長賞 ●「光に棚引く！！」

photographer　麻野 満範

兵庫県写真材料商(協)理事長賞

●「いい眺め」

photographer　手塚 勇

「工都途上」

photographer　板井 隆彦

「サイレント・ハーベスト(静かな実り)」

photographer　梅村 仁

「送電線」

photographer　川井 久次

「変わりゆく機械」

photographer　高橋 昌男

「工場を描く」

photographer　髙見 善巳

「町工場」

photographer　千葉 国男

「・・・から復活 きれいな海と空」

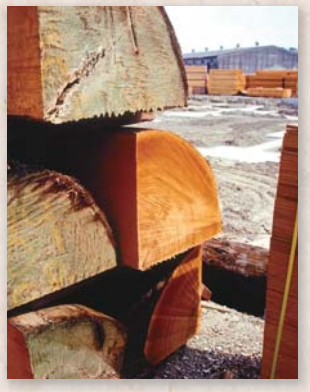
photographer　恒本 正人

「躍動A」

photographer　藤川 佳栄子

「世界に誇る Panasonic」

photographer　藤原 隆彦



「木場の威厳」

photographer　岡田 勝人

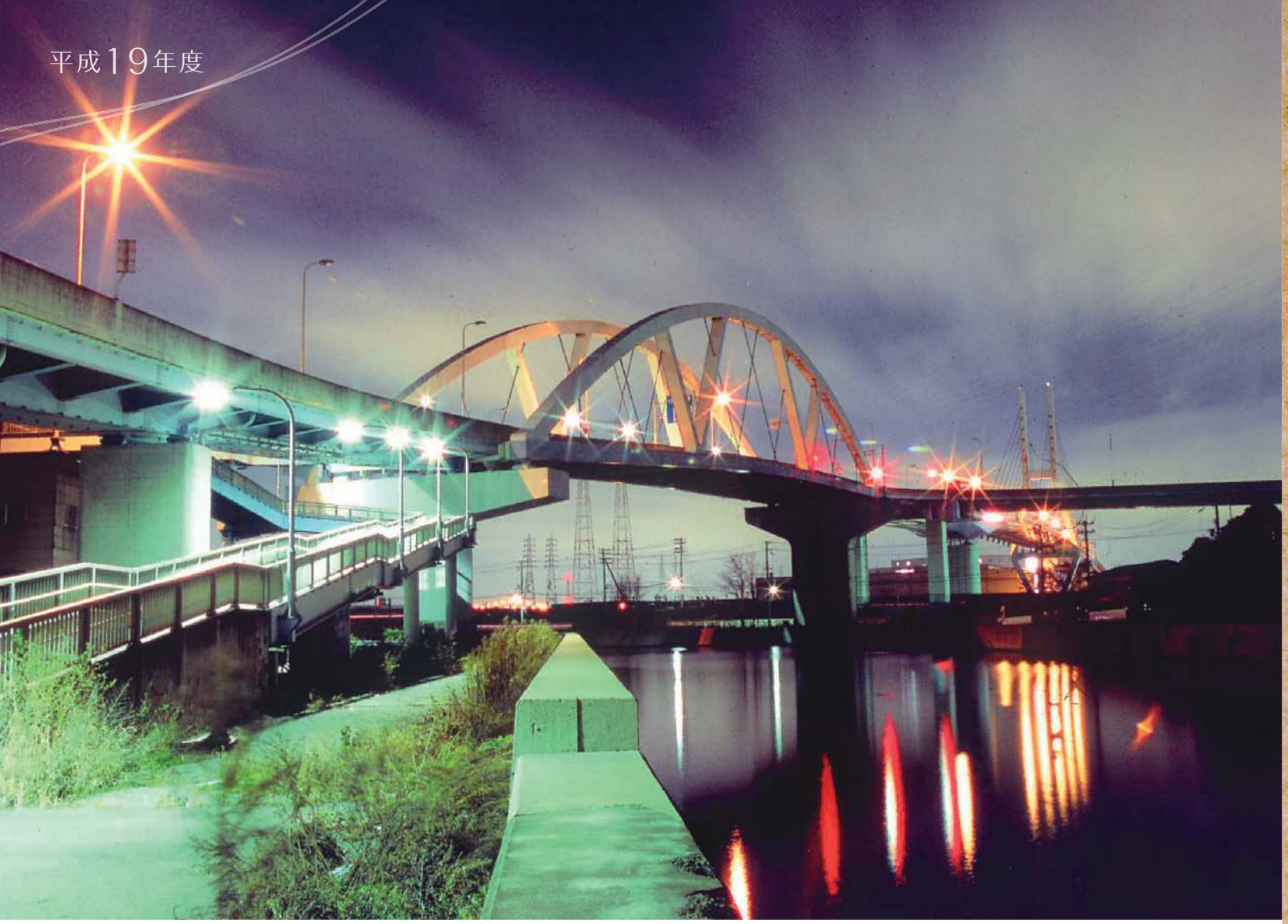
「映 像」

photographer　奥田 隆一

「線の風景」

photographer　谷口 恵美

入選作品
（順不同）



最優秀賞 ●「世界への架け橋」

photographer　荒木 せつお

工都尼崎の情景【第4回】

■十八年度と同様、尼崎市域全域を撮影対象としました。

このコンテストも四回目となり、取り組み続けてきていただいた応募者方々の工都尼崎に対する理解が深まってきたと感じました。

写真家の観照の深まりは見る方々にも伝わり、観賞していただいた市民の皆さんに工都尼崎をより理解していただけたと信じます。

公害の町の代表ともいわれた尼崎ではありました。しかしこれらの現状を写した写真を見ていただけると、これからの尼崎は、大切なものを継承しながら、次の時代をめざして活動を始めようとしている気配を感じていただけるでしょう。

優秀賞 ●「企業の支え」

photographer　徳本 善則

尼崎市長賞 ●「企業にも春来たる」

photographer　荘司 靖久

尼崎市議会議長賞 ●「未来への夢」

photographer　牧野 昭子

兵庫県阪神南県民局長賞 ●「安嶺の花ソニック」

photographer　塚本 律章

(財)尼崎地域・産業活性化機構理事長賞 ●「ウォーターフロント」

photographer　鳴瀬 博美

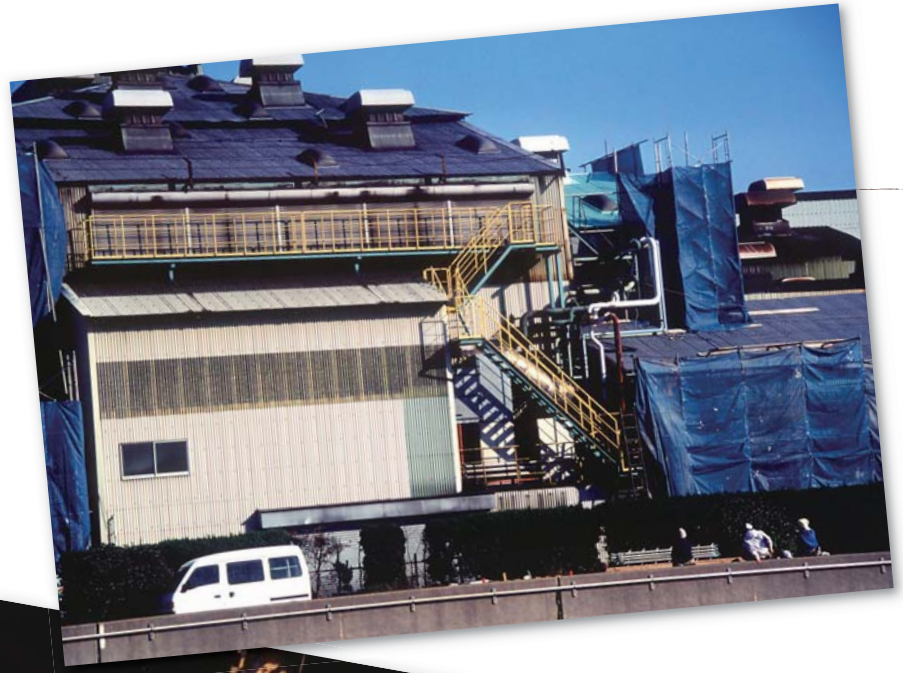
(財)尼信地域振興財団理事長賞

●「いざ出航」

photographer　薬師 正興

尼崎商工会議所会頭賞 ●「クレーンと雲」

photographer　川井 久次

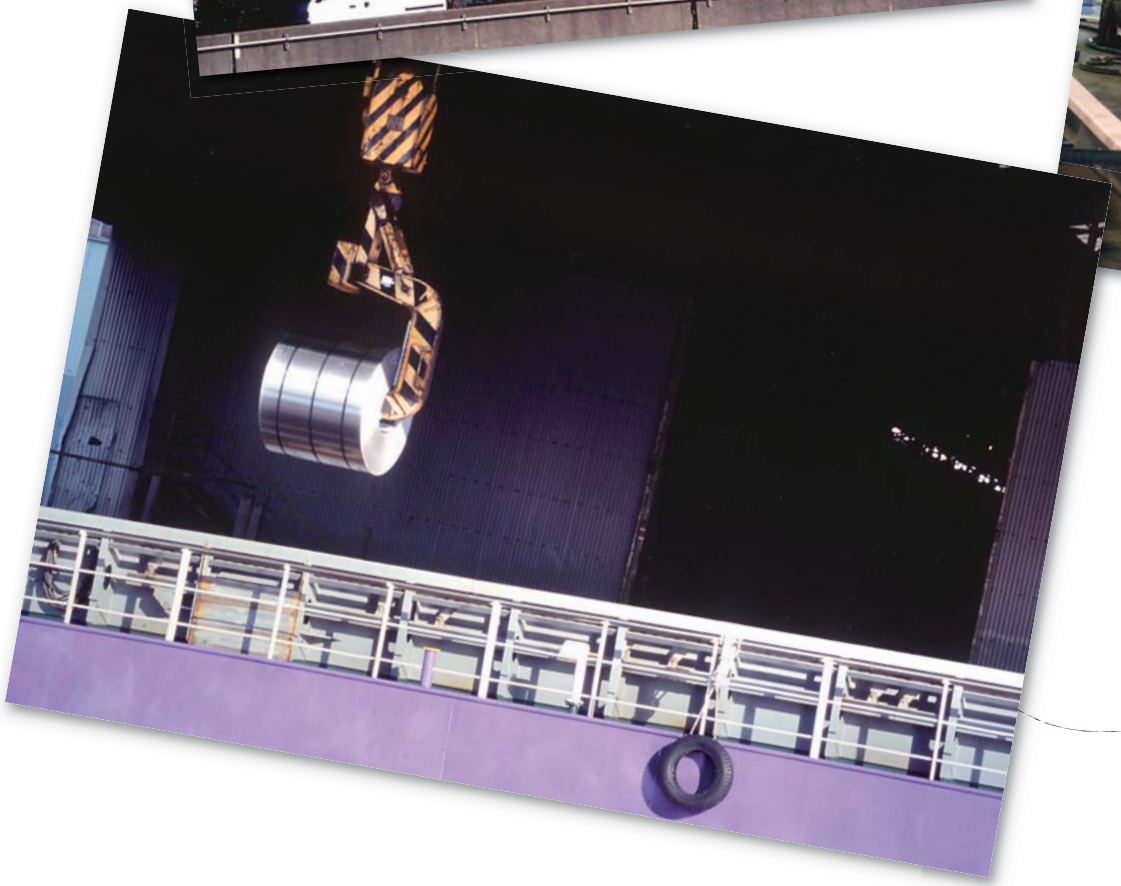


尼崎経営者協会会長賞 ●「改修工事」

photographer　藤川 佳栄子

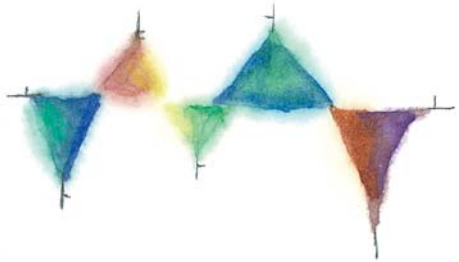
(協)尼崎工業会理事長賞 ●「技術の継承」

photographer　竹下 繁



尼崎信用金庫理事長賞 ●「鋼帯の船積」

photographer　板井 隆彦



兵庫県写真材料商(協)理事長賞

●「夕 凪」

photographer　谷田 巳樹男

尼崎産業フェア実行委員会委員長賞　●「工都の夜明け」

photographer　青山 武司

「運河と工場」

photographer　今井 信義

「跳ね橋」

photographer　親谷 朔夫

「休日の朝」

photographer　喜多 林三

「港の眺め」

photographer　髙見 善巳

「公害の無い工都」

photographer　恒本 正人

「静から動へ」

photographer　中 淳二

「尼崎港」

photographer　藤原 隆彦

「五本煙突の記憶」

photographer　山田 慶信

「春の工都」

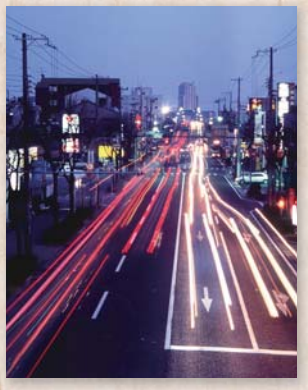
photographer　吉田 明

「接 岸」

photographer　鹿島 清秀

「Clean工都」

photographer　木村 吉男



「産業道路」

photographer　森田 喜久雄

入選作品
（順不同）

H16
H17
H18
H19
H20

最優秀賞 ●「お出かけ日和」

photographer　鳴瀬 博美

工都尼崎の情景【第5回】

■最終回の今回は、「工都の四季」を主要なテーマとして募集しました。無味乾燥とよく言われる工都ではありますが、大自然と同じく四季に恵まれた時代時代を生きています。尼崎でもそこかしこに、四季折々の味わい深い季節の気配が感じられます。その季節感を求めて、一年間撮影していただいた労力と努力に感謝します。

工都の景観が地域資源として見直されようとするとき、これまでの五回分の写真群が、尼崎の文化記念として現代と未来をつなぐ精神的な財産になっていくことでしょう。

ここに工業都市尼崎の情景をほぼ網羅し俯瞰をする記録集ができあがりました。五年間という長期間にわたり応募していただいた皆様。ありがとうございました。

大阪芸術大学写真学科 教授
有野 永霧

優秀賞 ●「春の訪れ」

photographer　林 尚茂

尼崎市長賞 ●「尼の祭り」

photographer　喜多 林三

尼崎市議会議長賞 ●「町工場」

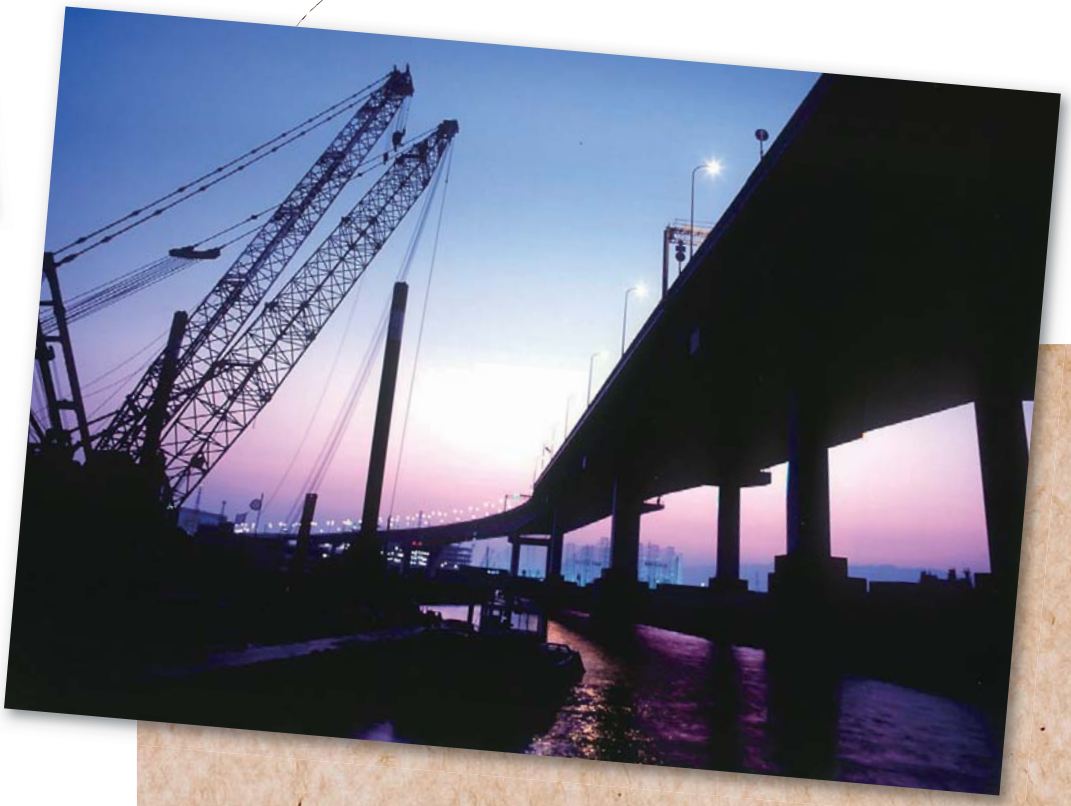
photographer　森田 喜久雄

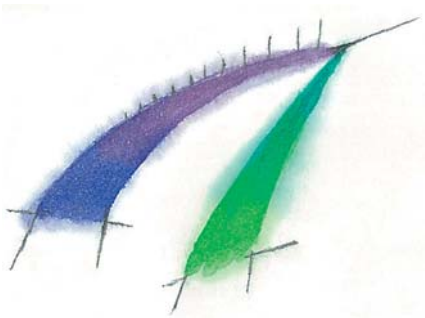
兵庫県阪神南県民局長賞 ●「それぞれの休日」

photographer　弓岡 武志

(財)尼崎地域・産業活性化機構理事長賞 ●「暮 色」

photographer　山内 守





(財)尼信地域振興財団理事長賞

●「春満開」

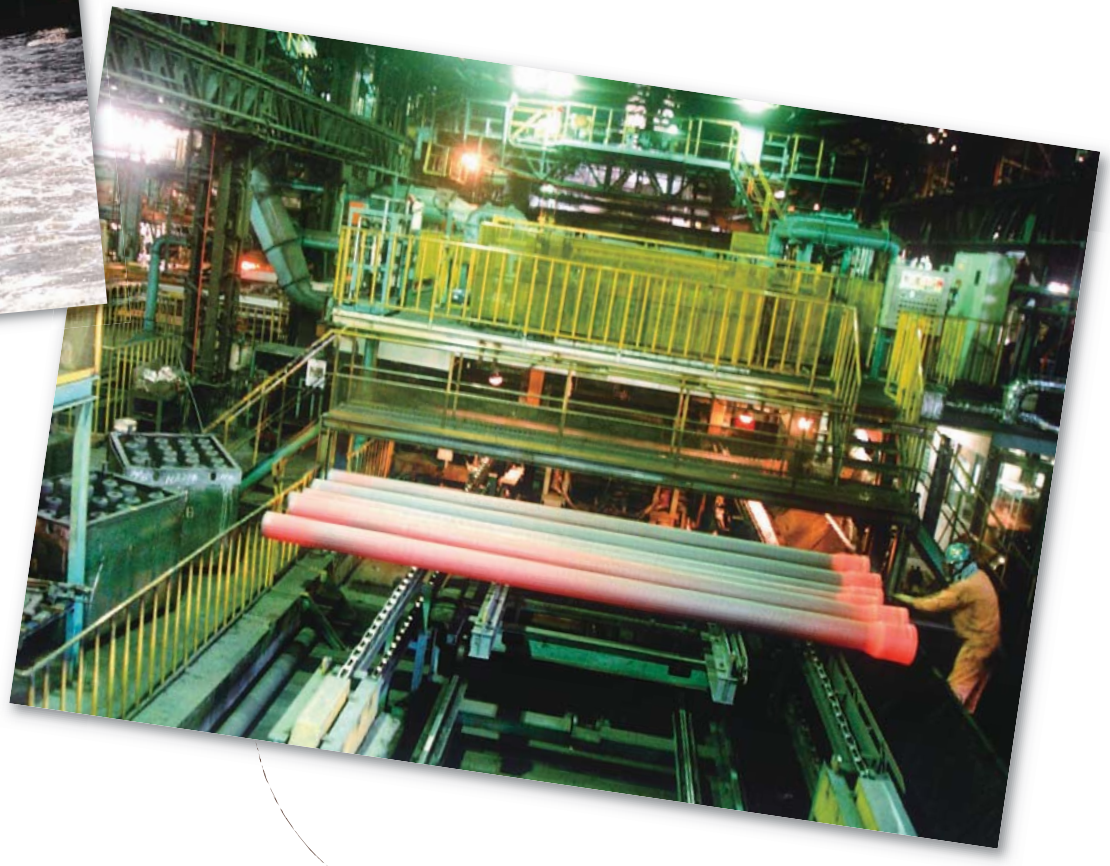
photographer　徳本 善則

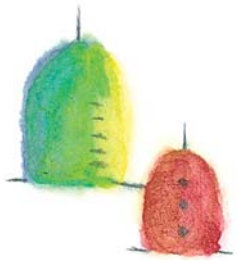
尼崎商工会議所会頭賞　●「市民と一対、春の花咲く」

photographer　千葉 国男

尼崎経営者協会会長賞 ●「尼ロック」

photographer　岡本 秀昭





(協)尼崎工業会理事長賞 ●「製造ライン」

photographer　鹿島 清秀

尼崎信用金庫理事長賞 ●「今日はお祭り」

photographer　恒本 正人

とれとれ
やでー！

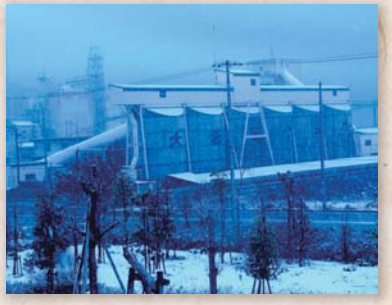
尼崎産業フェア実行委員会委員長賞 ●「休日の喜こび」

photographer　藤原 隆彦

入選作品
（順不同）

「蘇る北堀運河」
photographer　板井 隆彦

「休日の朝」
photographer　今井 信義

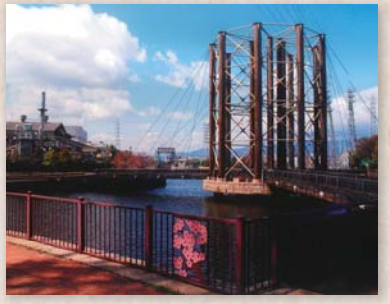


「11年振りの冬将軍」
photographer　木元 敏彦

「開 門！」
photographer　髙見 善巳

「萌」
photographer　塚本 律章

「華やぐ運河」
photographer　鳴瀬 博美

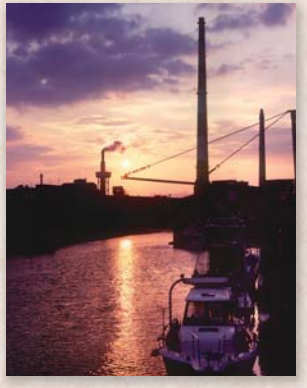


「春のであい橋」
photographer　西川 敏弘

「新工場建築中」
photographer　山田 慶信

「運搬船と工場テクノランド」
photographer　山根 信一

「開発進む南部」
photographer　吉田 明



「夕 照」
photographer　岡 勇太郎

「空・工・河 三位一体」
photographer　木村 吉男

「出 勤」
photographer　藤川 佳栄子

発行にあたって

尼崎市は、明治以降産業の振興に力を入れてきており、特に昭和期に入り、火力発電所の建設にともない鉄鋼業を中心とする重化学工業の工場建設が進み、大型工場が立地するようになりました。また埋め立て工事により工場造成がなされ、いわゆる重厚長大型工場の一大集積地を出現させることに成功します。そのことは、戦後の4大工業地帯のひとつである阪神工業地帯の中心的都市として飛躍的に発展する基礎を築くことになり、ものづくり都市としての地位は確固としたものとなりました。

しかし、時代ともに産業を取り巻く構造変化、特に高度経済成長期の重化学工業を中心とする重厚長大型産業から低成長経済期での軽薄短小型産業へ大きく産業構造が変化したなかでの尼崎市は、大型工場の操業停止や撤退などに見舞われて、特に南部臨海工業地帯での工場の閉鎖等に伴う未利用地が多く見られるようになりました。ただ、そうした中でも「ものづくり」を中心とする製造事業所では、長年培ってきた技術を基礎に独自の製品開発などに繋げてこの構造変化に対応してきました。

近年、尼崎市はパナソニック株式会社のプラズマディスプレイ工場の誘致をはじめとして、南部臨海工業地帯における積極的な工場誘致政策が奏功し、徐徐にものづくり都市としての新たな息吹が感じられるようになりました。

そうした、ものづくりの都市として発展している都市の姿「工場の景観」を、都市構造の視点から関西学院大学総合政策学部教授の角野幸博氏に、写真の視点から大阪芸術大学写真学科教授の有野永霧氏にそれぞれ執筆をお願いし、写真を織り交ぜて「産業空間が織り成す各種造形物」と「ものづくり都市尼崎のなかでの工場と人とのかかわり」に視点をおいた記録集として編集しました。

最後に「工都尼崎の情景」写真コンテストに応募された方々に感謝申し上げるとともに、今回この記録集が未来において、「工都尼崎の情景」がより一層活気に満ち溢れた情景でありますようにと願い財団法人尼信地域振興財団の協賛をいただき発行しました。

工都尼崎の情景

平成16年－20年

発行日 平成20年10月

編集・発行 財団法人 尼崎地域・産業活性化機構
尼崎市昭和通2丁目6番68号 尼崎市中小企業センター3F
ＴＥＬ 06-6488-9501(代)
ＦＡＸ 06-6488-9525
ＵＲＬ http://www.ama-in.or.jp
デザイン制作 (株)バード・デザインハウス